

いのちのとりで裁判 10.28 大決起集会

集会アピール

ちょうど10年前の今日、日比谷野外音楽堂に4千人の仲間が集まりました。「人間らしく生きたい 守ろう憲法 25 条 10.28 生活保護アクション in 日比谷」です。この生活保護問題では初めての大きな集会が、生活保護基準という“命の砦”を守り、より良いものしていくスタートとなりました。

各地で裁判がたたかわれる中、集会の翌年となる2016年11月7日に、220人の当事者・支援者が参加して、「いのちのとりで裁判全国アクション」が結成され、全国で手をつないでたたかってきました。

権利のために声をあげると、すぐにバッシングされるという風潮の中、その逆風に身をさらしながらも立ち上がり、顔や名前も出し、街頭で声を上げた原告。それを支えた弁護士や支援者。その思いにこたえる形で最高裁判所は、今年6月27日に原告勝訴の判決を言いわたしました。

しかし、判決から4か月。最高裁で違法判断が確定したにもかかわらず、いまだに厚生労働大臣は謝罪もせず、被害回復のメドさえ示していません。それどころか、決着がついた問題を蒸し返して専門委員会で論議し、新たな引き下げを行おうとしている疑いさえあります。

生活保護基準が違法に引き下げられてからすでに12年。原告の2割以上が亡くなっています。

私たちは求めます。原告だけでなく、すべての生活保護利用者に対して、謝罪すること。そして、一刻も早く被害を補償すること。さらには、再発防止のための検証を行うこと。そのためにも、厚生労働大臣は私たちとの話し合いのテーブルに付くべきです。

私たちはあきらめません。人間の尊厳を守り抜くためたたかいます。

「だまってへんで、これからも」

2025年10月28日

いのちのとりで裁判 10.28 大決起集会
参加者一同